Rookies

特別編～天王山を経験したルーキーたち～

#7 米満一聖

青学大戦以来となるスタメン出場となった対亜大1回戦。「山崎投手がいるが気持ちで負けないと思っていた」と1年生ながらも強気でバッターボックスに立った。オープン戦から好調を維持する米満は、その山崎から自身のリーグ戦初打点。持ち味と語るミート力で現在の打率は.278。チャンスでも結果を残し、1年生ながらに存在感を放つ。（副嶋大悟）

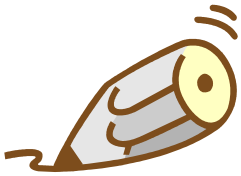
#33 犬伏湧也

亜大2回戦、リーグ戦初スタメンだった。持ち味は100mを10秒90の駿足。だが王者は足を活かせる場面を与えてくれない。大学野球の洗礼を浴びるには十分すぎる相手だった。「高校よりレベルが高い。自分の力を出し切れなかった」と悔しさをにじませ、「（亜大には）秋でリベンジする」と誓った。（平田サリナ）

#12 中山大貴

初球を打ち取ると次の打者は「大学に入ってから自信がついてきた」と話す鋭いストレートと、最後はチェンジアップで3球三振。打者2人、たった4球での堂々の神宮デビューだった。その4球を「ふわふわしてたかんじ」と振り返るが「次はもう少し落ち着いて投げたい」と反省点も見つかった。尊敬する先輩に挙げる今永には「調子で野球をするな」と言われている。この日もその言葉を胸に登板。市立川越高の先輩に元エースの井口拓皓（現・日本通運）がおり、誘われ駒大へ。追う背中は知っている。この左腕の躍動を期待したい。（五十嵐秋音）

コマスポ記者メモ



Vol.02～得点率～

リーグ順位		安打	四死球	得点数	得点率	打率	平均残塁数/試合	平均三振数/試合
1	亜大	46	39	33	0.388★	0.229	5.57□	3.85
2	駒大	44	29	20	0.274	0.208	7.14	7.429
5	中大	63	18	19	0.235	0.275	7.57	7
4	拓大	51	32	18	0.217	0.237	8.71■	5
3	国学大	35	17	11	0.216	0.287□	8.5	7.5□
6	青学大	25	8	6	0.182	0.191■	6.75	1.5■

※国学大・拓大は４試合、それ以外は６試合を消化。■がワースト、□がトップ値

リーグ戦も中盤に差し掛かり、優勝や入れ替え戦が見えてきたチームもあるのではないか。戦国東都のし烈な争いがますます熱を帯びてくるころだ。駒大は先週、戦後初の6連覇を目指す亜大と戦ったが、力の差を見せつけられての完敗となった。

今季、ここまで各チーム4～6試合を消化している。その中で興味深い数字が残っている。

各チームの**得点率**(**(四死球＋安打)÷得点数**)を見ると、亜大は約4割。走者が出ると約4割の可能性でホームに還ってくる計算だ。残り5チームは3点を切っている。その他、犠飛打の数が圧倒的に高く、4チームが亜大の半分以下という数字だ。チーム打率も2割前半で三振数、残塁数も少ない事を考えると、効率の良い攻撃をしていると言えるのではないか。果たしてこれが首位の要因なのか――